

令和2年度 学校経営の方針

県立五泉特別支援学校 大竹 嘉則

1 教育目標 「ともにきらめく」の具現化

教育目標の具現化を図るため、児童生徒の学習活動への意欲を高め、取り組んだ結果、「楽しくて満足した」、「やり遂げて充実した」という気持ちの醸成を図ることを大切にします。このような学校生活を通して、主体的に生活しようという向上心を育てるとともに、現在及び将来の生活に必要な知識や技能を確かに身に付けていくようにします。

(1) 活動の意欲を高める授業の推進について

単元・題材が進むにつれ、児童生徒の活動への意欲が高まる授業を展開します。

【単元、題材の序盤】 → 【中盤】 → 【終盤】
意欲の芽生え 意欲の継続 意欲の高まり

そのためには、次の点を努力事項として、取り組んでいきます。

- ①児童生徒の実態を、「意欲・態度」と「知識・技能」の両面からの確に把握します。
- ②児童生徒の興味・関心や挑戦意欲を喚起するような、魅力的な学習活動を開発します。
例えば、
 - ・五感に訴える教材の開発
 - ・本物や本物に近い体験的な活動の導入 など
- ③活動への意欲が持続し続けるように、励ましなど必要な支援を十分に行います。

(2) 現在及び将来の生活に必要な知識や技能の見極めについて

限りある学校生活の中で、現在及び将来の生活に必要な知識や技能を着実に身に付けてもらうため、保護者や関係機関等の意見も参考にしながら、優先順位の高い指導内容を選定・配列します。そして、(1)の努力事項で述べたような手立てにより、児童生徒が楽しみながら、充実感を感じながら習得できるように学校生活づくりを推進します。

2 保護者、地域、関係機関との強い連携

1のような学校生活を作っていくためには、保護者、地域、関係機関と同一歩調でともに同じ方向に向かっていくことが求められます。そのためには、信頼される学校でなければなりません。学校は、開かれた学校として必要な情報を分かりやすく、タイムリーに発信したり、個別の教育支援計画の策定等を通して、積極的に情報を求めたりするようにしていきます。

また、五泉市という土地柄を大切に、各方面とこれまで以上に親密な関係を築けるよう、様々な交流活動を積極的に推進します。

3 五泉・阿賀地域の特別支援学校として、特別支援教育のセンター的役割の推進

特別支援教育のセンター的役割を担うには、特別支援教育に関して幅広く、深い知識や専門的な技能を有しなければなりません。例えば、発達をとらえる心理検査のこと、確かな進路に向けてのキャリア教育や職業指導・職場開拓のこと、ユニバーサルデザイン化した授業のこと、重度・重複障害児の活動を保障する医療的ケアのこと、社会性を育むソーシャルスキルトレーニングのことなど。地域でのセンター的役割を担うには、様々な特別支援教育に関する情報を積極的に収集し、その内容を習得し、地域のニーズに応じていく役割を果たしていきます。